

American Society of Clinical Oncology (ASCO) 50th Annual Meeting

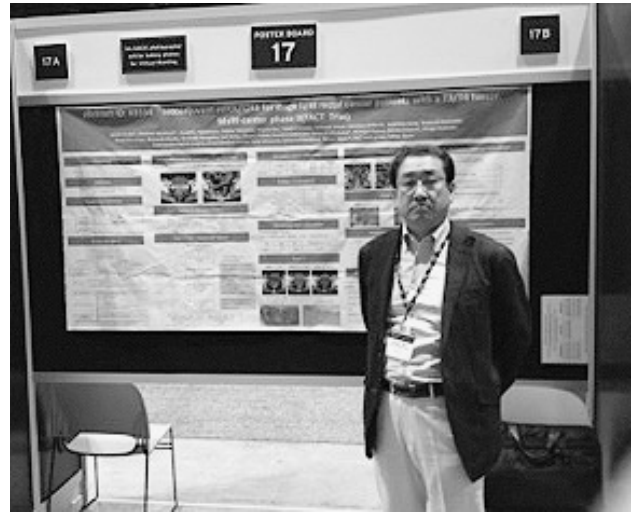


小池 淳一

東邦大学医学部外科学講座一般・消化器外科学分野 (大森)

2014年5月30日～6月3日にシカゴで開催された American Society of Clinical Oncology (ASCO) 50th Annual Meeting に参加させていただきました。世界的に有名な学会なのでご存知の方も多いと思いますが、世界最大級の規模を誇り、がん治療において世界の方向性に大きく影響を与えるような重要な学会です。大規模臨床試験が行われている欧州や米国から質の高いエビデンスが全てのがん領域で発表されるため、全世界の oncologist や製薬メーカーなどが多数参加し、来場者が3万人を超えるマンモス学会です。毎年学会場“McCormick Place”にいったん足を踏み入れると、会場の規模・参加者の数・展示ブースの華やかさ、全てにおいて日本の学会を超越しており、ただただ驚嘆するばかりでした。

今回、私が参加した関東を中心に行われた下部進行直腸癌に対する術前化学療法の多施設共同臨床試験について、運良く ASCO で発表させて頂くことができました。欧米での標準治療は化学放射線治療であるため、放射線を用いない「化学療法のみ」の術前治療に対して否定的な立場の意見が多いことが予想されたため、ある程度覚悟を持ってポスターセッションに臨みました。拙い英語で何とか discussion できたことや、賛否両論、貴重なご意見を頂いたことは良い経験であり、刺激的な時間でした。特にこの分野で著名な Memorial Sloan Kettering Cancer Center の Lentz 先生がわれわれのデータをチェックしてくださり、貴重なコメントを頂いた時は、これまでの苦勞が一瞬にして吹き飛ばような感動がありました。以前、海外の学会で発表した時も感じたのですが、日本の学会で発表するよりも反響がさまざま、同様な研究を行っている世界のスペシャリストから率直な意見を聞くことができる良い機会であると今回の ASCO でも強く感じました。先進的研究をされている先生方には「オススメ」です。日本からも多くのエキス



ポスターの前で。発表直前の筆者。

パートが参加していましたが、海外においての方がこのエキスパートの皆様とより身近に交流することができ、親交を深め、貴重なコメントを頂く良い機会でもありました。

私自身、シカゴ訪問が初めてだったので、学会の合間をぬってシカゴ美術館での絵画鑑賞やミシガン湖畔のジョギングなど、海外の学会ならではの気分転換ができました。さらに偶然にも自分の50歳の誕生日が“第50回 ASCO”の開催日と重なり、シカゴ川沿いのステーキハウスでお祝いして頂いたことも良い思い出となりました。ただ ASCO 開催期間中、シカゴのホテル料金が通常料金の2倍以上に跳ね上がっていたのは難点でした。

大学からの援助のもと、このような貴重な経験をさせて頂きましたことに、この場を借りて深謝したいと思います。

DOI : 10.14994/tohoigaku.2016.r025